第 76 回西日本泌尿器科学会総会　ダイバーシティ推進委員会企画プログラム
＜指導医教育コース＞
日時：令和 6 年 11 月 1 日（金）　16：25 - 17：25
会場：佐賀市文化会館中ホール 第 2 会場
テーマ:生成AI時代のWork Life Integration～どこまで味方になってくれる？～
座長：秦　聡孝　　（大分大学）
　　窪田　理沙　　（岡山大学）
基調講演Ⅰ：
「生成 AI を活用した医師の業務改善と働き方改革の展望」
原田洸（こう）先生（米国 NY マウントサイナイ医科大学　老年医学科 ）
原田先生にはＮＹより web で参加して頂き、1,医師のための Chat GPT 活用法 2,米国のデジタル化と働き方改革 3,生成 AI による働き方改革の 3 項目についてご講演頂いた。米国では電子カルテアプリなどのＤＸ化が、医師のフレキシブルで効率的な働き方を可能にしている。患者用のアプリで予約・カルテ・検査データを閲覧可能であり、チャット機能で直接主治医とやりとりでき、業務改善につながっている。臨床医が作成した臨床知識データベースを学習し医療に特化した臨床意思決定支援 AI（Glass Health)、診察室での問診会話をカルテ上に要約作成する AI(Dax Copilot)などを紹介して頂いた。今後生成 AI 導入により、臨床現場での意思決定のサポートや文章作成効率化が期待される。今後日本の医療現場にも活用できる講演をして頂いた。
基調講演Ⅱ：
香田将英先生（岡山大学医歯薬総合研究科地域医療共育推進オフィス 特任准教授 オフィス長）
「教育から考える働き方改革時代の生成AI活用」
香田先生には現地でご講演頂き、模擬患者 AI を使用する香田先生自作の医療面接練習チャットボット（フィードバック付き）の紹介や岡山大学での実際の活用について講演して頂いた。また、医療教育や研究分野における明日から使用できる AI として、論文作成や抄読会準備の時間労力短縮として Google Gemini の活用、NotebookLM、Connected Papers（論文リストができる)、Research Rabbit などを紹介して頂いた。働き方改革における AI 活用のポイントは、「小事は AI：働き方をサポート」「大事は己（おのれ)：やりたいことに専念」という内容であった。

予定質疑応答
濱﨑和代（済生会熊本病院）
塩﨑啓登（徳島県立中央病院泌尿器科）
AI に求めるタスクシフト・業務改善について事前質問をして頂いた。米国の電子カルテシステムの日本での導入について、論文作成指導時の上手な AI の活用

法など質問が上がった。
その他会場からも、AI を用いた医療業界の働き方改革や効率アップについての講演であり非常にためになった、明日から application を利用してみようと思う、等の前向きな意見を頂いた。質疑が白熱したため、時間が超過したが、明日から役立つ大変ためになる講演であった。学会に参加できなかった会員が講演を講習できるよう学会 HP にオンデマンドで配信予定である。
プログラム参加者数　：　50 名

写真
スクリーン画面：原田先生
写真左より窪田先生、塩崎先生、香田先生、濱﨑先生、秦先生

（文責　川崎　麻己）